

意見提出者	社団法人日本演劇興行協会
-------	--------------

意見項目	意見内容
(2)ワイヤレスブロードバンドを実現する為の課題	<p>演劇興行協会は、特定ラジオマイクの利用者として、“ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保”に対して意見を提言致します。</p> <p>特定ラジオマイクは、総務省の“電波利用高度化の促進”の意向に沿って、総務省のご指導のもと、平成20年3月に情報通信審議会で審議を開始し、平成20年11月の電波監理審議会の答申まで1年の歳月を費やし、平成21年3月“ラジオマイクのデジタル化”が法制化され特定ラジオマイクの高度化が実現しました。</p> <p>これにより、特定ラジオマイクの同時運用本数が拡大し今までの同時運用チャンネル20波から同時運用チャンネル72波の運用が可能となり、海外の舞台と同等のマルチチャンネルの運用が可能となりました。</p> <p>本年（平成22年）に入りデジタル特定ラジオマイクの製品も発売されこれからの実運用が期待されています。</p> <p>これら一連の作業は、特定ラジオマイクが現行の800MHz周波数帯で運用する事を前提に行われてきました。</p> <p>また、特定ラジオマイクは、放送番組制作、コンサート、舞台演劇、イベント、伝統芸術など高品質な音声伝送が必要な部署で多岐に使用され、これらの分野に必須な機器であり、特に近年は、複数台使用するマルチチャンネル仕様は、今後、益々必要不可欠な機器になってきます。</p> <p>特筆すべきは、特定ラジオマイクは、世界に類を見ない放送FPUと周波数を共用しながら、安定した運用を築き上げてきた実績があります。これは、特定ラジオマイク利用者連盟とFPU連絡協議会の組織的な運用調整により、お互いに電波干渉を未然防ぎながらの運用をし、20年を費やして築き上げてきた成果です。</p> <p>我々、舞台演劇においては、年々、ラジオマイクの重要性が増し、マルチチャンネル仕様のラジオマイク無しには公演は成り立たない現状となっています。</p> <p>特定ラジオマイクは、10mWの微弱な出力の電波ですが、使用周波数の特性で舞台装置などの障害物があっても運用が可能な電波特性を持っています。</p> <p>昨年（平成21年）高度化を成し得たばかりの特定ラジオマイクが、万一、他の周波数に移行をせざるを得ない状況となった場合、放送、舞台、コンサート、イベント他、多岐に亘る文化事業に多大な影響が発生します、特に私たちが携わる演劇事業への影響は多大で存続をおびやかす事態を招きます。</p>

	<p>この電波の特性を維持するためには、特定ラジオマイクを今後とも800MHz周波数帯に存続しなければならないと考え、他の周波数帯への移行には反対致します。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------